

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成26年10月～12月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成27年1月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 26 年 10 月～12 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 148 企業

2. 調査対象期間

平成 26 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 26 年 11 月 15 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 5
小 売 業	4 2
サービス業	4 9
合 計	1 4 8

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 26 年 10 月～12 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より 0.9 と若干改善し△32.2 (前期△33.1) となった。産業別にみると、建設業が△4.0 (前期△8.0) と 4.0 ポイントの改善、サービス業では△45.8 (前期△51.1) と 5.3 ポイント改善したが、製造業は△6.3 (前期△6.0) と△0.3 ポイント悪化、小売業では △53.6 (前期△48.7) と△4.9 ポイント悪化した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額) D I では、全体としては前期 (H26 年 7 月～10 月期) から今期は悪化傾向になっている。産業別にみると、建設業は 12.0 (前期 0.0) で 12.0 ポイント改善したが、製造業は△15.7 (前期 6.1)で△21.8 ポイント悪化、小売業で△59.6 (前期△39.4) と△20.2 ポイント悪化し、サービス業でも△ 36.7 (前期△32.7) と△4.0 ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iについても、全体として今期は前期に比べて悪化した。産業別にみると建設業は△12.0 (前期△12.0) で前期同様、サービス業では△52.1 (前期△53.1) と 1.0 ポイント改善したが、製造業で△ 34.4 (前期△15.7) と△ 18.7 ポイント悪化、小売業は△61.9 (前期△44.1) で△17.8 ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、建設業では 24.0%で前期比 4.0 ポイント増加し、小売業でも 7.1%と前期比 0.1 ポイント増加したが、製造業では 21.9%で前期比△2.3 ポイント減少し、サービス業では 12.2%で前期比△ 2.1 ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H26.12月調査の日銀短観で、「中小企業の業況D Iは製造業が前回（△1）から改善しプラス1、非製造業は前回（ゼロ）から悪化し△1だった。非製造業D Iは5期ぶりにマイナス圏に沈んだ。先行きはいずれも悪化を見込む」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、建設業がプラスになる一方、製造業がマイナスに転じ、小売業、サービス業もマイナス値にとどまった。前期との比較では建設業では改善したが、製造業、小売業、サービス業では悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、建設業では全国、東北を上回る一方、製造業では全国以下東北並み、小売業、サービス業では全国、東北を下回った。

表－1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 7.4	△ 9.6	△ 9.3	△ 15.7	6.1	△ 15.7
建 設 業	△ 6.6	△ 9.8	△ 6.4	△ 6.4	0.0	12.0
小 売 業	△ 39.9	△ 40.7	△ 36.3	△ 44.5	△ 39.4	△ 59.6
サービ業	△ 24.4	△ 26.3	△ 24.8	△ 29.9	△ 32.7	△ 36.7

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であるが、前期との比較では建設業、サービス業が前期並み、製造業、小売業で悪化した。今期D Iの比較で、宮城は建設業では全国と東北を上回る一方、製造業、小売業、サービス業では全国と東北を共に下回った。

表－2 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 19.6	△ 21.1	△ 29.8	△ 25.6	△ 15.7	△ 34.4
建 設 業	△ 19.9	△ 20.9	△ 19.6	△ 12.8	△ 12.0	△ 12.0
小 売 業	△ 43.3	△ 43.0	△ 44.2	△ 47.0	△ 44.1	△ 61.9
サービ業	△ 31.9	△ 32.9	△ 34.6	△ 39.2	△ 53.1	△ 52.1

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（27年1月～3月期）では、今期状況D Iとの比較で小売業で7.3ポイントの改善見通しの一方、製造業で△16.5ポイントの悪化、建設業で△28.0ポイント悪化、サービス業では△13.3ポイントの悪化見通しとなった。採算来期見通しD Iでも、同じく今期状況D Iとの比較で小売業で2.4ポイントの改善見通しの一方、製造業、建設業、サービス業では今期並みか若干の悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、売上額は全国では全業種で悪化見通し、宮城でも小売業を除き悪化の見通しであった。採算は、小売業、サービス業で全国、宮城共にやや改善か今期並みの見通しである一方、製造業、建設業で共にやや悪化見通しであった。来期見通しD Iでは、宮城は売上、採算共に建設業では全国を上回るものの他業種では全国を下回った見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 9.6	△ 14.6	△ 15.7	△ 32.2
建設業	△ 9.8	△ 24.0	12.0	△ 16.0
小売業	△ 40.7	△ 42.5	△ 59.6	△ 52.3
サービス業	△ 26.3	△ 29.5	△ 36.7	△ 50.0

表－4 採算の状況と見通し (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 21.1	△ 22.4	△ 34.4	△ 35.4
建設業	△ 20.9	△ 23.5	△ 12.0	△ 12.5
小売業	△ 43.0	△ 42.1	△ 61.9	△ 59.5
サービス業	△ 32.9	△ 32.7	△ 52.1	△ 52.1

2. 県下産業別の景況

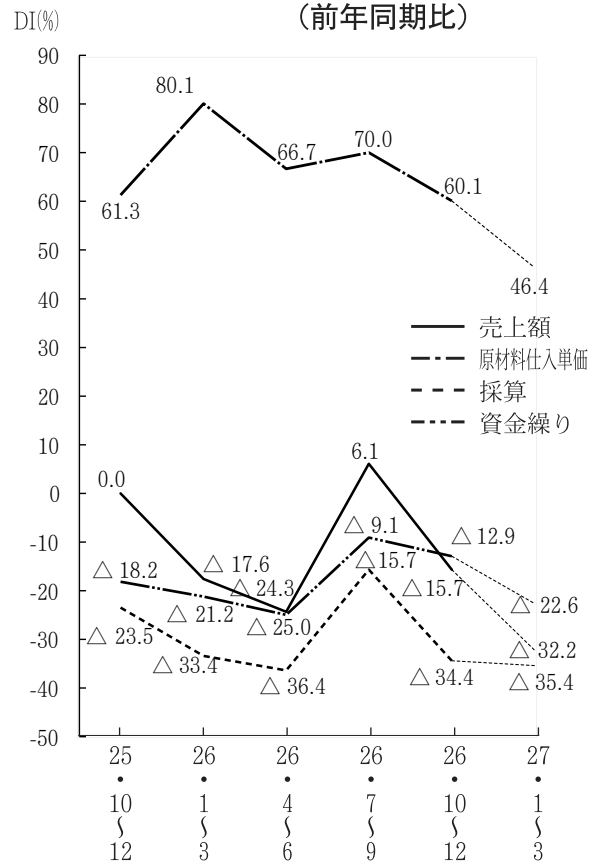
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△15.7（前期 6.1）となり△21.8ポイント悪化し、採算D Iも今期△34.4（前期△ 15.7）で△18.7ポイントの悪化、資金繰りD Iも今期△12.9（前期△ 9.1）で△3.8ポイント悪化した。

原材料仕入単価は今期 60.1（前期 70.0）と△ 9.9ポイント下落し、来期も引き続き改善の見通しであり原材料の高騰状況は相対的には緩和の方向にある。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



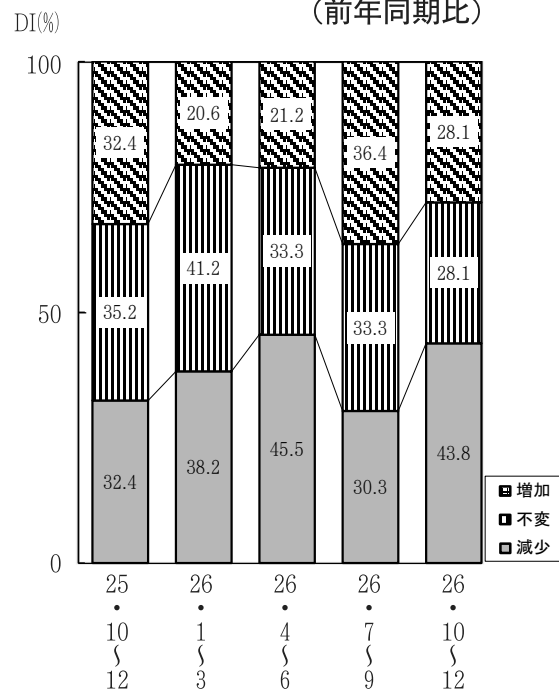
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の 28.1%（前期 36.4%）と△8.3ポイント減少し、「減少」と回答した企業は 43.8%（前期 30.3%）と 13.5ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△15.7（前期 6.1）となり前期比△21.8ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

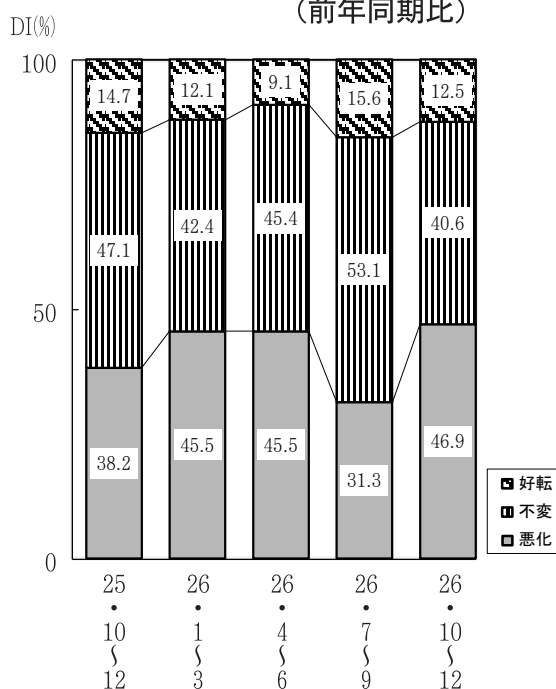


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の12.5%(前期15.6%)で△3.1ポイント減少し、「悪化」と回答した企業は46.9%(前期31.3%)で15.6ポイント増加した。

その結果、採算DIは△34.4(前期△15.7)で△18.7ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



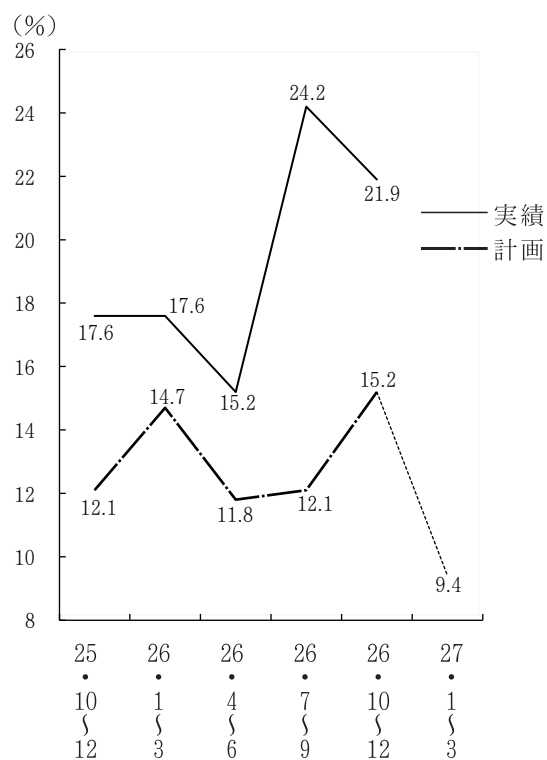
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の21.9%(前期24.2%)で△2.3ポイント減少した。

その設備内容は、土地、工場建物、生産設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の9.4%で、その設備内容は生産設備、その他となっている。

図1-4 設備投資の状況

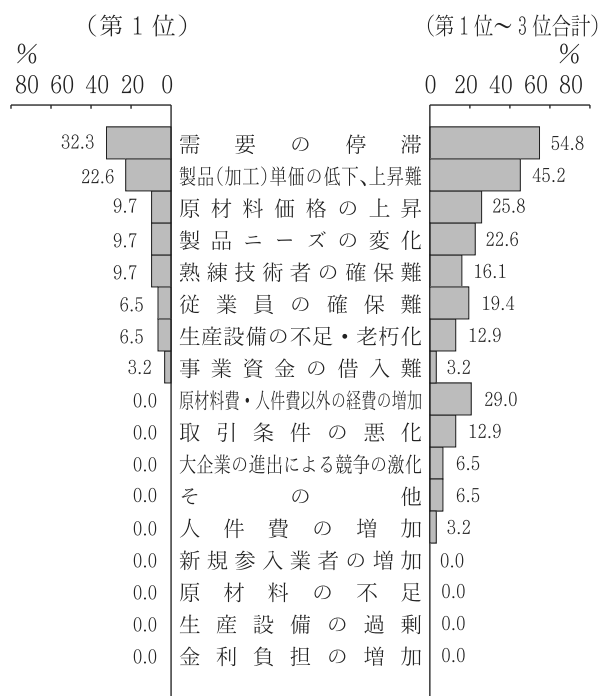


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」の32.3%で、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が22.6%、「原材料価格の上昇」、「製品ニーズの変化」、「熟練技術者の確保難」が9.7%と同率で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「需要の停滞」で54.8%（複数回答計、以下同じ）、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が45.2%、「原材料費・人件費以外の経費の増加」が29.0%と続いた。

図1-5 経営上の問題点



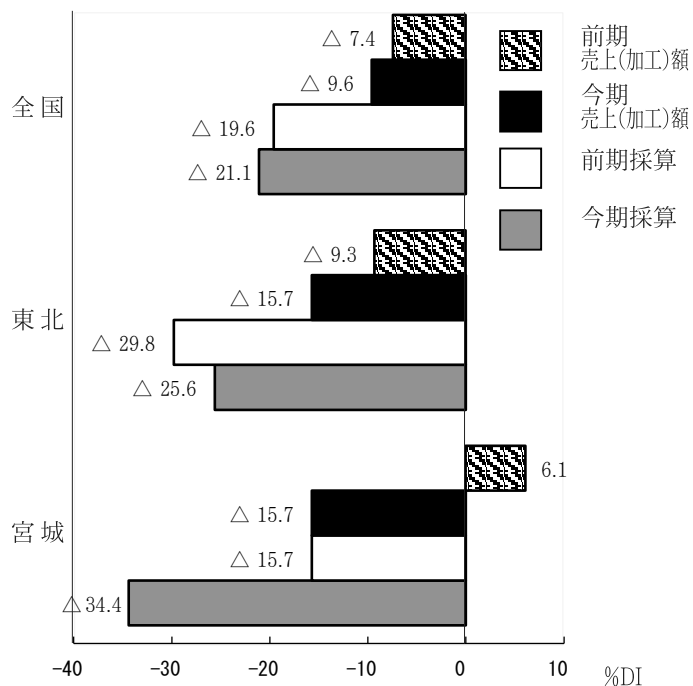
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額DIは、全国では若干の悪化、東北で悪化、宮城では大幅な悪化となった。

採算DIは、全国では若干の悪化、東北では改善したが、宮城では大幅な悪化となった。

本県回答事業者からは「円安による材料価格の上昇等により原価上昇」（成形加工業）との一方、「当社独自の営業により売上アップしている」。また現在、季節的な商品により物流量が増してきている」（水産加工業）とのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



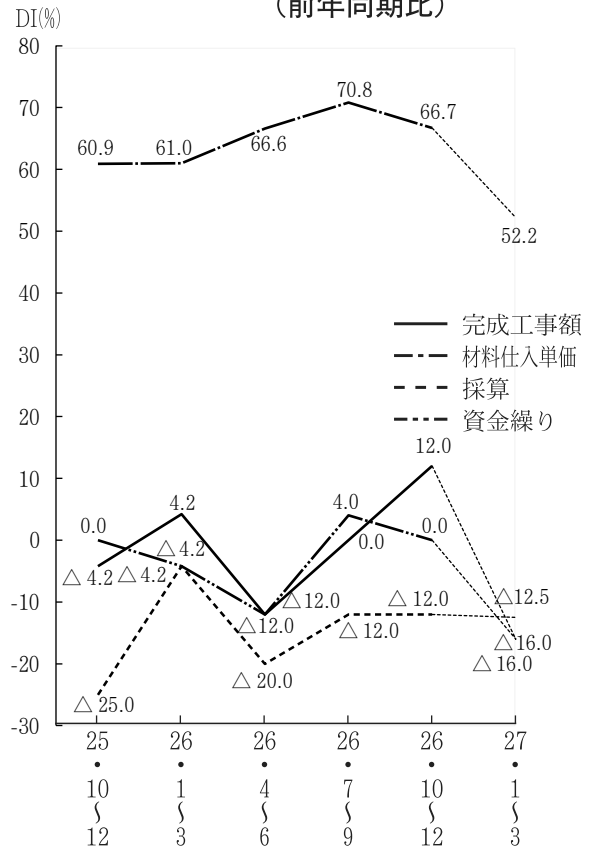
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期 12.0（前期 0.0）と 12.0 ポイント改善し、採算D Iは今期△12.0（前期△12.0）で横ばい、資金繰りD Iは今期 0.0（前期 4.0）と△4.0 ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 66.7（前期 70.8）と△4.1 ポイント低下した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



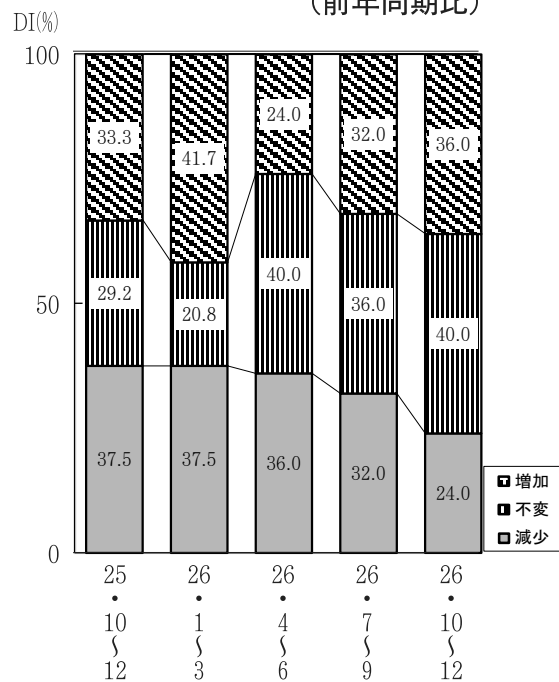
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 36.0%（前期 32.0%）で 4.0 ポイント増加し、「減少」と回答した企業は 24.0%（前期 32.0%）と△8.0 ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは 12.0（前期 0.0）と 12.0 ポイント改善した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

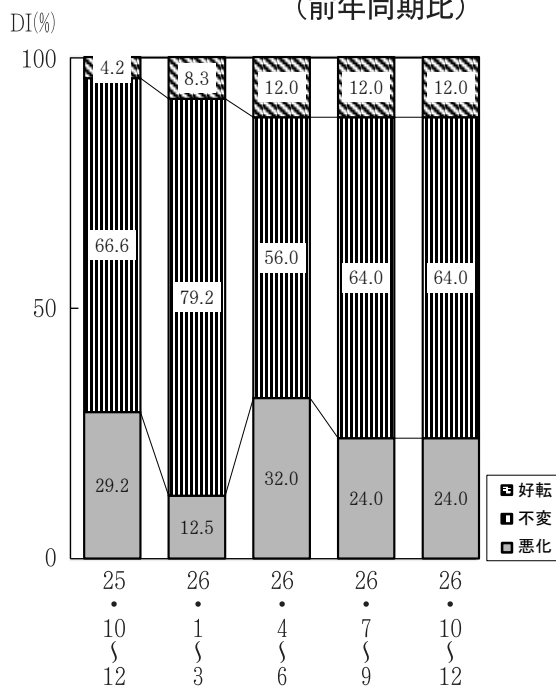


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 12.0% (前期 12.0%) で横ばい、「悪化」と回答した企業も全体の 24.0% (前期 24.0%) で横ばいであった。

その結果、採算DIは△12.0 (前期△12.0) で横ばいであった。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



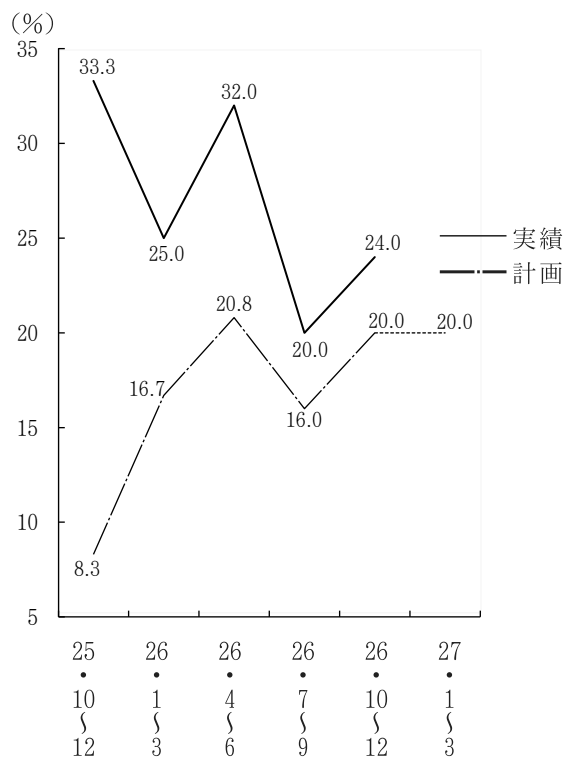
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 24.0 % (前期 20.0 %) で 4.0 ポイント増加した。

その設備内容は建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 20.0%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、福利厚生施設、その他となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

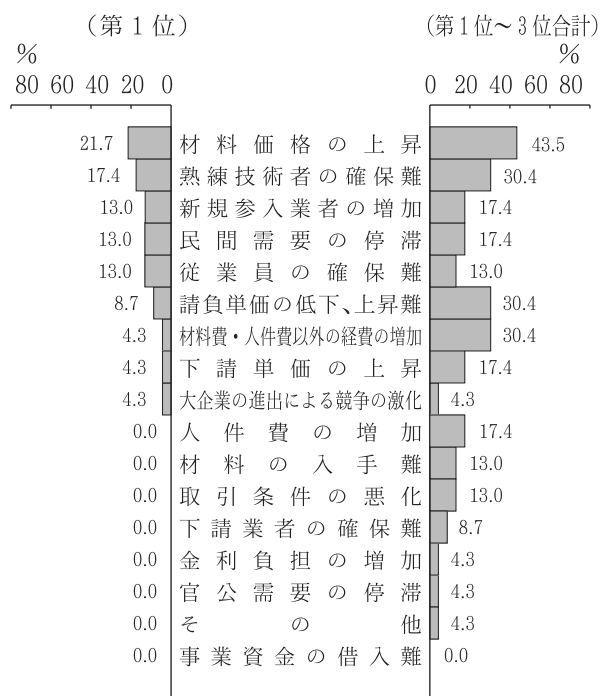


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「材料価格の上昇」(21.7%)で、次いで「熟練技術者の確保難」(17.4%)、「新規参入業者の増加」、「民間需要の停滞」、「従業員の確保難」が同率13.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」が43.5%(複数回答計、以下同じ)で最上位、次いで「熟練技術者の確保難」、「請負単価の低下、上昇難」、「材料費・人件費以外の経費の増加」が同率30.4%であった。

図2-5 経営上の問題点



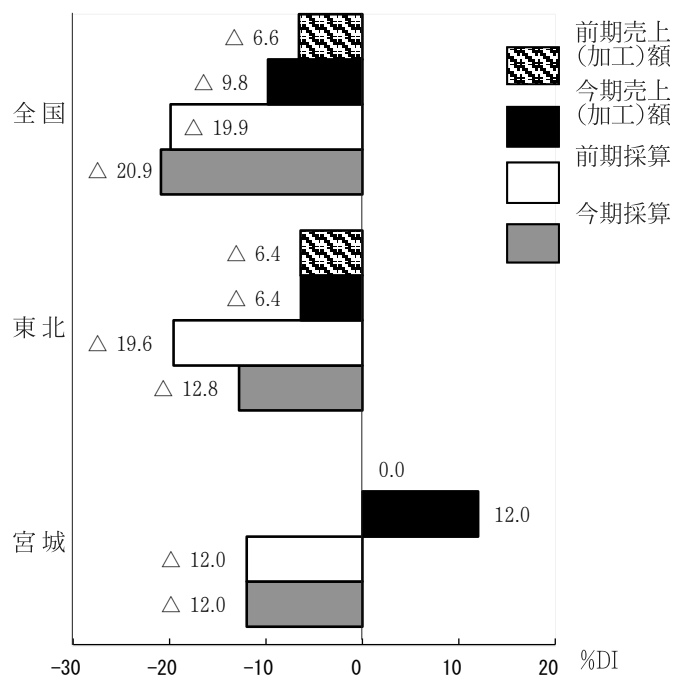
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では売上額D I、採算D I共に全国は共に若干の悪化、東北、宮城は共に横ばいか改善の方向であった。

今期D Iでは、売上、採算共に宮城>東北>全国の順であった。

本県回答事業所からは「異業種からの参入から価格競争が激化し、合わせて円安から輸入石材が上昇している」(石材業)、「柱になる仕事をこなしつつ急な復興応援にも断ることなく職人を出し続けた結果安定して受注がある」(電気工事業)などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



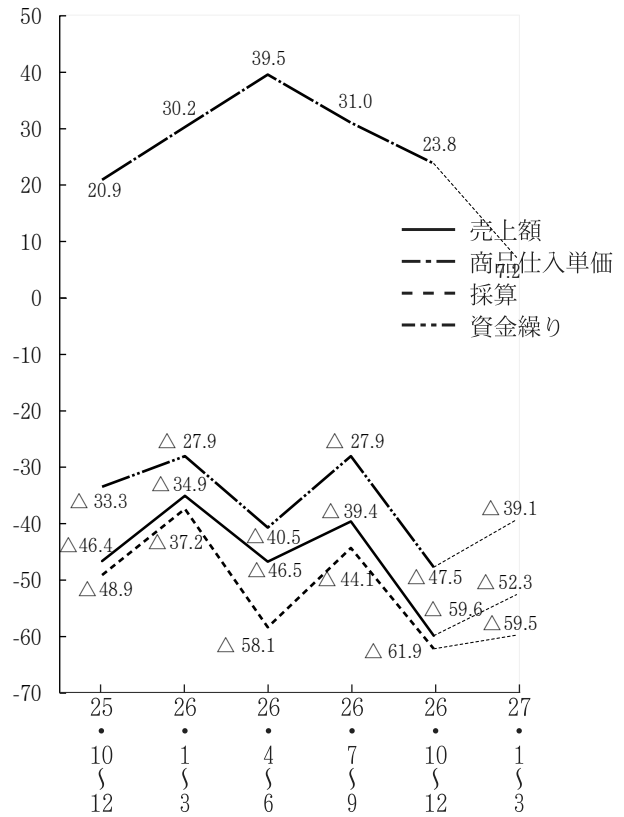
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△59.6（前期△39.4）と△20.2ポイント悪化し、採算D Iは今期△61.9（前期△44.1）で△17.8ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△47.5（前期△27.9）で△19.6ポイント悪化と、いずれも前期に比べ悪化した。

商品仕入単価D Iは今期23.8（前期31.0）となり△7.2ポイント低下した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



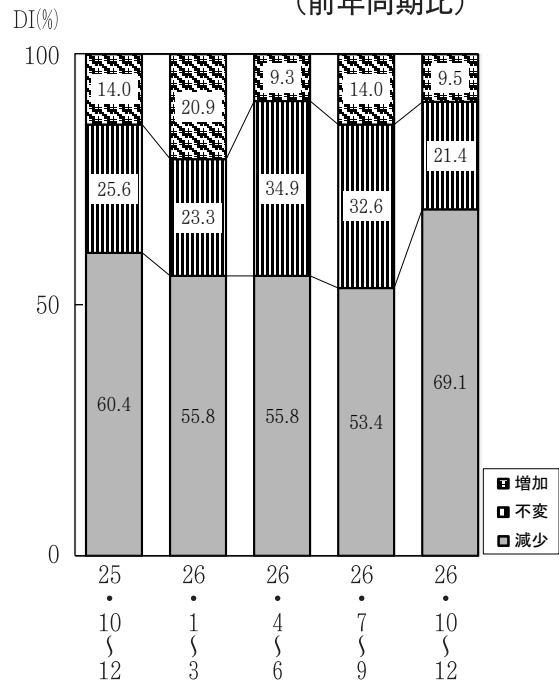
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は今期は全体の9.5%（前期14.0%）と△4.5ポイント減少し、「減少」の回答は今期は全体の69.1%（前期53.4%）と15.7ポイント増加した。

その結果、売上額D Iは今期△59.6（前期△39.4）と△20.2ポイント悪化した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

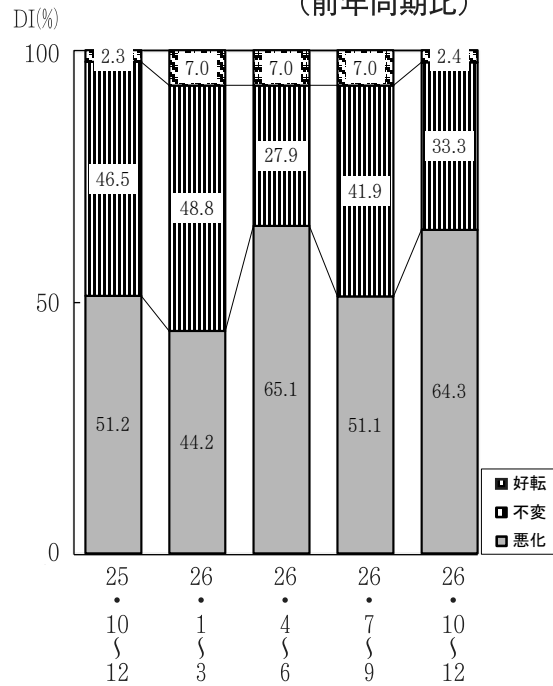


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は今期は全体の2.4%（前期7.0%）と△4.6ポイント減少、「悪化」の回答は今期は全体の64.3%（前期51.1%）で13.2ポイント増加した。

その結果、採算D Iは、今期△ 61.9（前期△44.1）で△17.8ポイント悪化した。

図 3 - 3 採算の状況
(前年同期比)



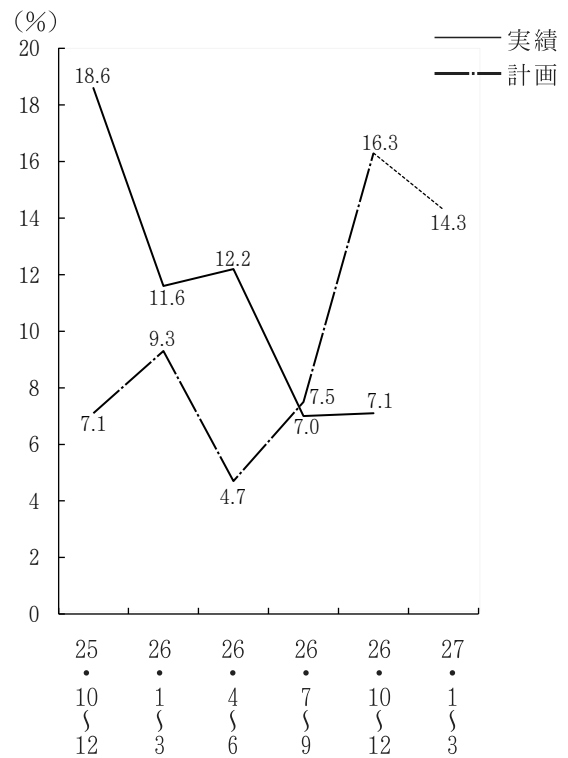
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の7.1%（前期7.0%）で、0.1ポイント増加した。

その設備内容は車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業は14.3%で、その内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器、その他となっている。

図 3 - 4 設備投資の状況

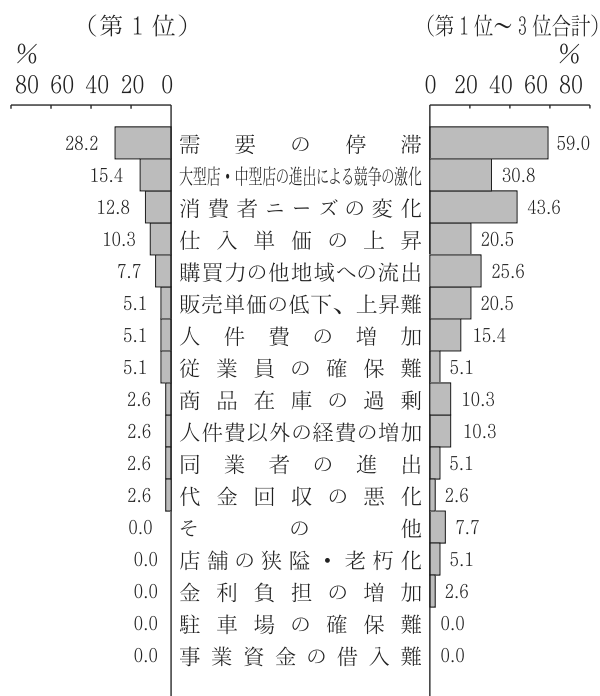


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」で28.2%、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」が15.4%、「消費者ニーズの変化」が12.8%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(59.0%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「消費者ニーズの変化」(43.6%)、「大型店・中型店の進出による競争の激化」(30.8%)が続いた。

図3-5 経営上の問題点



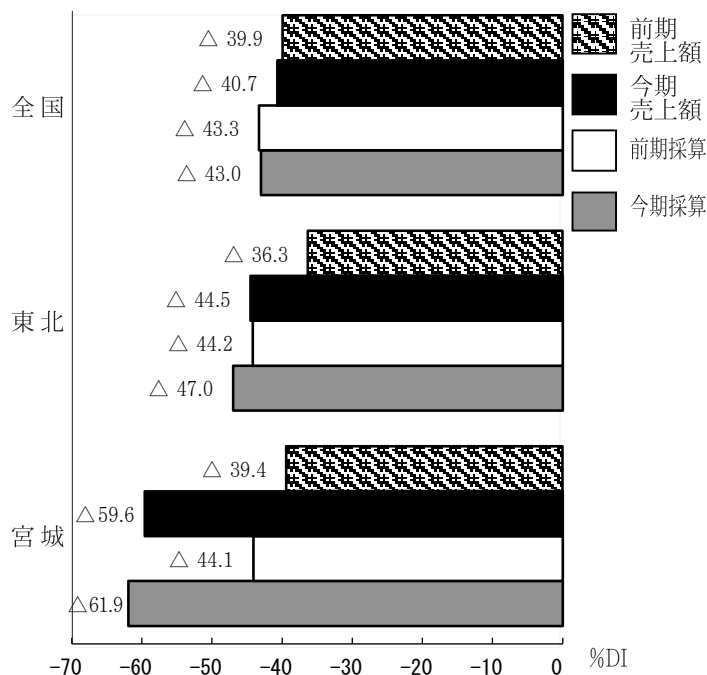
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期の前期との比較では、売上DI、採算DI共に宮城が大幅に悪化、東北が悪化に対し、全国はほぼ前期並みであった。

今期DIでも売上、採算共に全国>東北>宮城の順であった。

本県回答事業所から「4月からの消費税増税の影響なのか7～8月ぐらいから消費の停滞感を強く感じる」(靴販売業)、「震災以降の建築関係の活発な動きは落ち着いた感がある。待っているのは受注が減る一方で、営業活動を進めないと厳しい」(建築材料販売業)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



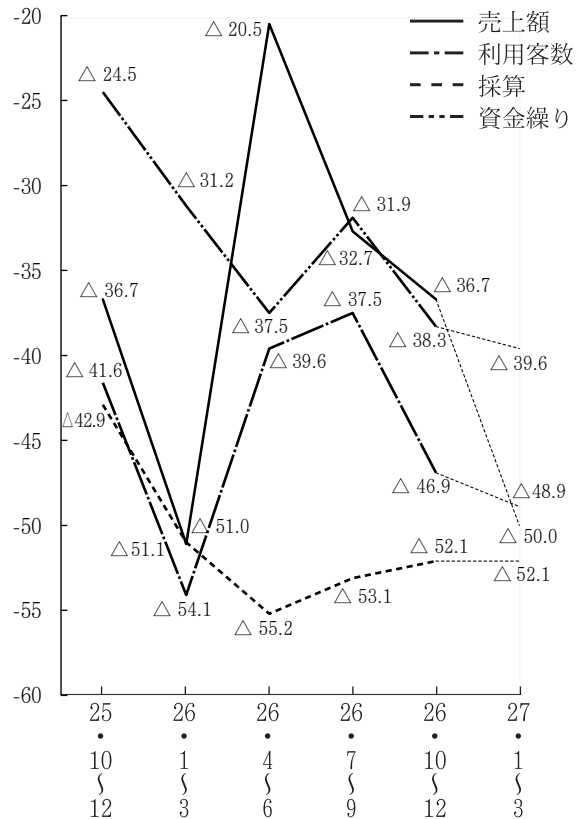
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらし

売上(収入)額D Iは今期△36.7(前期△32.7)で△4.0ポイント悪化、採算D Iは今期△52.1(前期△53.1)で1.0ポイント改善、資金繰りD Iは今期△38.3(前期△31.9)と△6.4ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△46.9(前期△37.5)で△9.4ポイント減少した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



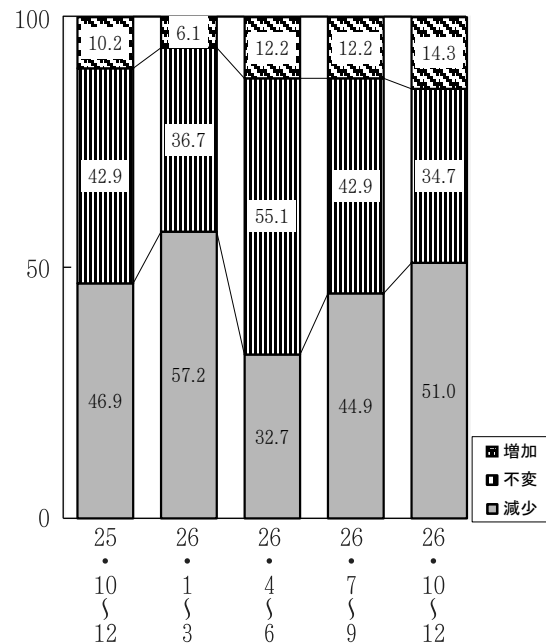
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は今期は全体の14.3%(前期12.2%)で2.1ポイント増加、「減少」の回答は今期51.0%(前期44.9%)で6.1ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額D Iは今期△36.7(前期△32.7)で△4.0ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況
(前年同期比)

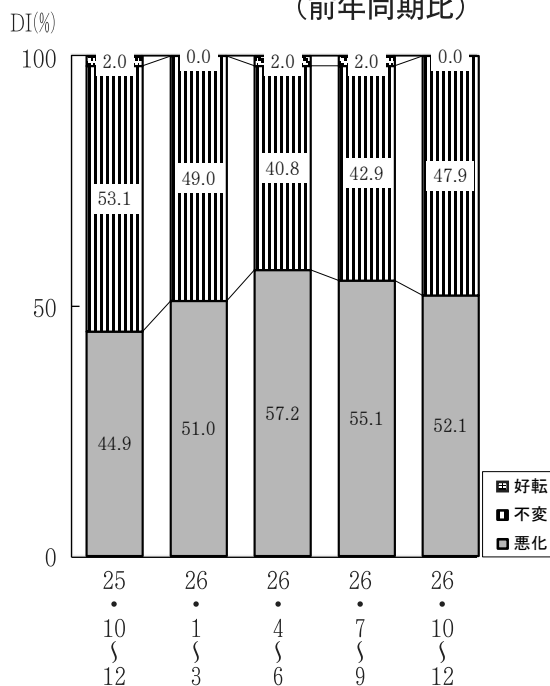


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は今期は全体の0.0%（前期 2.0%）で前期比△2.0ポイント減少、「悪化」と回答した企業も今期 52.1%（前期 55.1%）と△3.0ポイント減少した。

その結果、採算D Iは今期△52.1（前期△53.1）で1.0ポイント改善した。

図 4 - 3 採算の状況
(前年同期比)



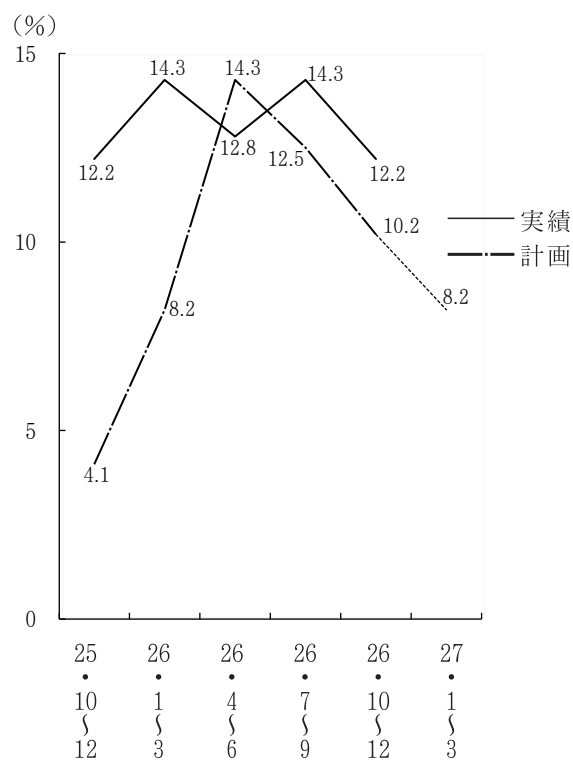
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の12.2%（前期 14.3%）で△ 2.1ポイント減少した。

その設備内容は、土地、サービス、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、8.2%であり、その内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、その他となっている。

図 4 - 4 設備投資の状況

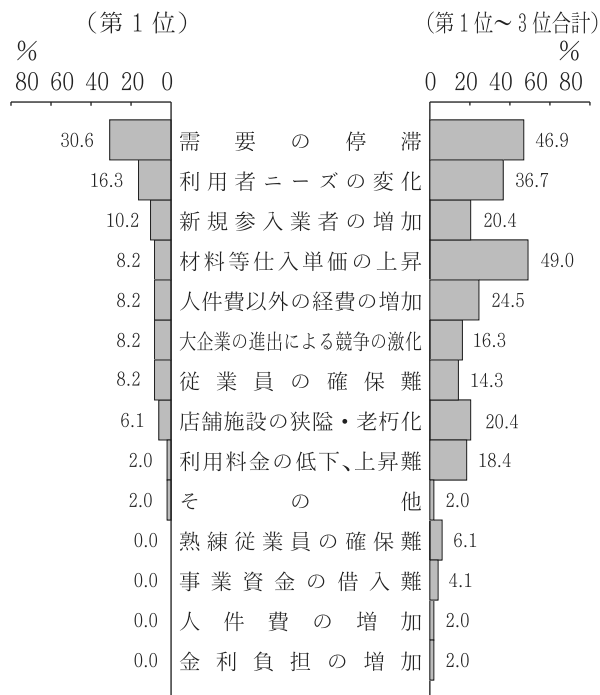


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(30.6%)で、次いで「利用者ニーズの変化」(16.3%)、更に「新規参入業者の増加」(10.2%)が続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料等仕入単価の上昇」(49.0% (複数回答合計、以下同じ)) が最上位で、次いで「需要の停滞」(46.9%)、「利用者ニーズの変化」(36.7%)が続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期売上DIは、前期に比べて全国では若干の悪化、東北、宮城はいずれも悪化した。

採算DIでは、前期に比べ全国ではやや悪化方向である一方、東北で悪化、宮城においては若干の改善という結果であった。

今期DIでは売上・採算共に全国>東北>宮城の順であった。

本県回答事業所からは「仕入れ価格の値上がりや客数減少に苦心している」(理容業)とのコメントが寄せられた。また「近隣や地元企業の設備投資による宿泊が下支えになっているが、今後の動向は不明」(旅館業)とのコメントもあった。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

